シニア玉手箱
地域に根ざす応援紙
月刊 9月号 vol.68 ¥0
制作・発行／©夕刊三重新聞社2018年
〒515-0821三重県松阪市外五曲町15
TEL0598（21）6113　FAX0598（21）8500
協　力／松阪市老人クラブ連合会
テーマ／「い　い　老　後　に」

ＪＡＴＰ「年金受給者バンド」メンバーの（左から）伊藤さん、古立亮子さん、渥美さん、尾崎さん、古立孝幸さん、高橋さん、藤木さん＝いずれも日野町のサライで

JAZZオールドファンへ

松阪のライブハウス 創業マスター（70）が 交代を決断

松阪市日野町の市中心商店街の一角、夜な夜な松阪のジャズファンたちが集う隠れ家的なライブハウスが転機を迎えました。1992（平成４）年のオープン以来、マスターを務めてきた渥美晋作さん（70）が９月10日での引退を決めたのです。地元アマチュア演奏家のジャムセッション（即興演奏）から国内外で活躍するプロのジャズミュージシャンの貴重な地方公演まで。ジャズを通し、生まれた無数の人のつながりは新マスターへと引き継がれます。渥美さんは「演奏する人も増え、この数年でやっと店としての役割、機能もはっきりしてきた」と話します。

「生演奏が聴ける、世界中から松阪に来てもらえるような価値あるスペースにしたい」

「ＪＡＺＺ酒房Ｓｅｒａｉ（サライ）」が誕生したのは92年12月10日だった。

当時は渥美さんが本業としていた眼鏡販売業の店舗を兼ね、眼鏡ブティック、アートギャラリー、カフェなど多機能を持った空間。以来、口コミでアマチュア演奏家たちが集うようになり、ジャズのライブハウスとして定着していった。

板橋文夫（ピアノ）、向井滋春（トロンボーン）、寺井尚子（バイオリン）、ヒューバート・ロウズ（フルート）…。演奏家同士の人脈で、国内外のプロ奏者らも県内公演の舞台に選んだ。

「まだまだ続けたいけど体力的、経済的、周辺環境的にも、この辺りが潮時」

渥美さんは２、３年前から後継者を探していた。「自分の夢としてライブハウスを持ちたい」という津市在住のジャズ愛好家の男性が現れ、引き継ぐことを決めた。

自ら選んだ〝引退日〟は71歳の誕生日を迎える前日の９月10日。当日は「懐かしの昭和」をテーマにした生演奏がある。「生演奏には技量、感情、人間性、人格が出てくる。プロでも『きょうは疲れとるのかな』と思う時から、何かが乗り移ったような演奏まである」。こだわってきた「生」の魅力を語る。

引退後は新マスターを支える黒子として「しばらくは無給で手伝い」という立場。「損得も度外視でやってきた。これからも地元の人たちが気楽に集って生演奏を楽しめる場にしてほしい」とサライの未来に期待する。

■■■■■

「長い歳月をかけてこの雰囲気を作ってきたんでしょう。僕らにとってはとても落ち着く場所だった」

サライ最古のハウスバンド・ＪＡＴＰ（通称＝年金受給者ジャズバンド）のバンドマスター兼ギターリスト・古立孝幸さん（70）＝松阪市平成町＝は空間に集ったジャズ愛好家たちの胸中を代弁する。

古立さんは北海道出身。ジャズボーカリストの妻・亮子さん（70）と24歳で結婚し、仕事で松阪に移住した。その亮子さんが「女性仲間で歌いたい」とリクエストしたのをきっかけに２０００（平成12）年ごろ、サライで演奏を始めた。

当時のメンバーのウッドベース・尾崎敏彦さん（65）＝伊勢市＝にジャズドラマーでもある〝マスター〟渥美さんが合流。４、５年前にはドラム・藤木昌紀さん（65）＝津市、サックス・高橋謙一さん（67）＝伊勢市、ピアノ・伊藤君代さん（51）＝松阪市市場庄町＝らが加わった。

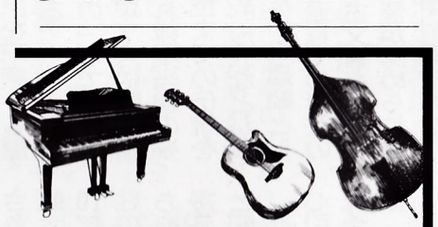
サライの空間はジャズを愛する人たちの相互扶助で守られてきた側面もある。古立さんは経済的負担を後方支援するため来松した同郷のジャズミュージシャンを自宅に泊めたこともあった。

古立さんは「プロだけでなく若い人を育て、素人も優しく支えてきてくれた」。渥美さんには「出会った時から変わらない。ぶっきらぼうで愛想も良い方ではない。これからいろいろやりたいことがお有りということで、それを続けてほしい」

最古参は「年金受給者バンド」

公演するプロのバイオリン・寺井尚子さん（手前）とトロンボーン・向井滋春さん（1995年3月25日）

これまでも感謝
これからも感謝
ぶっえいどう
松阪市中町1993
TEL0120-26-0959 ぶっえいどう 検索

今月のニュース

❶ＪＡＺＺオールドファンへ　❷ヤングG・B　❸私の交友録、年中福袋、イベント　❹❺山の農機具小屋拝見　❻あたまの扉　❼医療　❽エッセー、９月のお生まれさん